

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
発行責任者 土屋 智明
編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会
南会津郡小中学校長協議会



『萬物備乎我』

南会津教育事務所長

土屋 智明

南会津勤務が決まった時に、実際に南会津域内で勤務されたことのある先輩方から「南会津いいところだよ」「楽しみだね」「俺ももう一度、勤務したいなあ」など多くの言葉をいただけてきました。こちらに着任して数ヶ月、そのよさの一端を実感しています。

南会津の目の前の雄大な山々。特に今の季節その木々の緑が濃く、そばを流れる川の水は清冽です。学校は、静かで落ち着いた環境にあり、子どもたちは、その中で伸びのびとそして、生き生きとした表情を見せています。一番の環境のよさは人。教育熱心な方々が、互いをよく知る密接な関係性のよさを生かしつつ、子どもたちの行く末に熱い期待を寄せて関わっています。

さて、表題の言葉は、孟子の「萬物皆備於我矣」に由来している、私の母校の校訓です。「人間は誰もが自己の内に限りない発展の力を内蔵している」との意味が込められています。生徒たちが自分自身の可能性を信じ、自ら学び続けることの重要性を説いています。備わっている萬物とは、「限りない発展の力」です。子どもたちが、自分自身で

学び続けることこそ、自分の中にある可能性を限りなく引き出す鍵となります。至らない点の多い私でも、学ぶことで発展・成長できる(はず)との思いは支えになります。そして、南会津教育事務所で掲げている「自ら学ぶ子どもの育成」が、重要な要素となってきます。

落ち着いて学ぶことのできる自然環境。子どもたちの学びや成長を支援する関係者の密接な関係性。小規模校ならではの異学年や地域の方との多様な交流の機会。何かとネット経由で間接的に人とつながることも多い時代です。多様な年齢層の人たちと直接交流する体験は、成功も失敗も含めて、様々な人と出会い、関わっていく子どもたちの人間関係力の向上に寄与すると確信します。「多様な年齢層の人と学ぶ、人から学ぶ」これが、南会津ならではの子どもの発展の鍵の一つと考えます。

最後に、域内の「不祥事0の再スタート」も、教育の基盤として欠かせません。対話による風通しのよい職場作りの「継続」と「充実」をよろしくお願いいたします。



『子どもの可能性を伸ばす「プロセスの肯定」』

郡小中学校長協議会長

渡部 学

「子どもたちの学力を向上させたい、これからの時代を生き抜く力を育ててあげたい」、教育に携わる者なら、誰もがそう願うのではないのでしょうか。

かつて私が学級担任をしていた時、自分の教えたことをたくさん話し、指示も多く出していました。細かくていねいに教えることこそが学力の向上につながると信じていたからです。しかし、そんな私の姿を見た先輩教師から、ある言葉をいただきました。

「子どもたちにある程度任せる部分を作って、頑張っているプロセスをもっと認めてあげるといいと思うよ。」

当時の私は、教えることや指示ばかりが先行し、子どもたちを主体的に動かしていませんでした。先輩は、私の学級の子供たちが主体的に動かない要因をいろいろと考え、助言してくれたのだと思っています。

その先輩は、まさに「背中で教える」姿そのものでした。子どもたちが「やってみたい」と思える仕掛けを作り、挑戦する姿を温かく見守る。そして、成功か失敗かに関わらず、そのプロセスを認め、褒めることを忘れませんでした。認められた子どもたちは、さらに新たなことに挑戦する好循環を生み出し、生き生きとした笑顔であふれていました。これこそが、子どもたちの主体性を引き出すということなのだと、今ふり返って強く実感しています。

これからの時代を生き抜く子どもたちに必要なのは、新たなことに主体的に挑む力だと考えています。その原動力となるのが、日々の教室で積み重ねる「プロセスの肯定」です。子どもたちが自分の可能性を信じ、未来へ羽ばたいていけるよう、私たちはその挑戦に伴走する応援団でありたいと思っています。

南会津“自立と共生”推進プラン2026

自立と共生 南会津がつむぐ『南会津ならではの』教育

第7次福島県総合教育計画(学びの変革推進プラン)の6つの施策に基づき、南会津が目指す教育の基本理念や、域内の強み・課題を踏まえ、事業を実施しています。



施策1「学びの変革」による資質・能力の確実な育成

【「観」を見つめ直す】

6月25日(木)、域内学力向上担当者等研修会を実施しました。

演習を通して改めて研修者自身の「観」を振り返っていただくとともに、「自校においても、先生方一人一人が「観」を振り返り、共有して見つめ直すことで、学校全体の学力向上の取組に生かしていただきたい。」という話をさせていただきました。

また、館岩小学校の井上瞭先生には「一人一人を大切に学習環境づくり」について、南会津中学校の星美和先生には「自己理解につながる家庭学習の実践」について実践紹介をしていただきました。実践の背景や意図についても触れていただいたことで、研修者の「観」も広がったのではないかと思います。



学力向上担当者等研修会

施策3 学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育による多様性を力に変える土壌の確立



体制促進協議会



研修パッケージ
はこちらから

【誰ひとり取り残さない教育を】

5月28日(木)、第1回体制促進協議会を御蔵入交流館で実施し、域内教育委員会や福祉担当課、事業所の担当者が参加しました。

協議会の前半には、特別支援教育課の指導主事による県の事業内容の説明や特別支援教育センターの指導主事による研修パッケージの紹介がありました。後半には、特別支援教育の推進に向けて各自自治体で今年度特に力を入れて取り組んでいきたいことを検討する時間を設け、活発な意見交換がなされました。

特別支援教育の充実のために今後も地域の各関係機関との連携を深めていきたいと思います。

施策2「学校の在り方変革」による教員・学校の力の最大化

【フレッシュな力を最大限に！】

4月24日(金)、小・中学校初任者研修・新規採用養護教諭研修・新規採用学校栄養職員研修 地区別研修A一般研修を実施しました。

所長から「教職員を志した理由は？」と問われると、初任者の先生方一人一人から、熱く、純粋な思いが語られました。

所長講話の他には、域内の学校教育指導の重点、学年・学級経営のあり方等について研修を行いました。事後のアンケートから、「常に学び続ける姿勢を忘れず成長していきたい」などの感想が挙げられました。

教員が主体的に学び、やりがいをもって働くことができるよう、今後も各種研修会を充実させていきます。



小・中学校初任者研修
新規採用養護教諭研修
新規採用学校栄養職員研修
地区別研修A一般研修

施策4 福島で学び、福島に誇りを持つ 「福島を生きる」教育の推進

【社会に開かれた教育課程の推進】

6月12日(金)、地域連携担当教職員等南会津地区研修会を開催しました。

当日は、文部科学省総合教育政策局CSマイスターである安齋宏之氏に「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すための講演と熟議をしていただきました。講演ではコミュニティ・スクールの3つの役割や事例紹介をしていただき、コミュニティ・スクールの必要性を学ぶことができました。

後半の模擬熟議では、「地域のいいところ探し」を題材に単元構想図を作成し、内容の共有を行いました。模擬熟議を通して、コミュニティ・スクールでの話合いの進め方を学ぶことができました。地域と学校の協働の更なる推進に向けて、各校で実践してほしいと思います。



地域連携担当教職員等南会津地区研修会

※地域学校協働南会津地区研修会

11月9日(月)、御蔵入交流館にて開催します。地域連携についての知見を広げる絶好の機会です。ぜひご参加ください！



①長なわとび:「8の字とび」を3分間
【9人以下の部】【10～25人の部】
【26人以上の部】

②短なわとび
・個人(前回し、後ろ回し、二重跳び)
・ペア(2in1、連鎖跳び)

R7 長なわとび
小学校3年生の部(9人以下)
第2位 南会津町立伊南小学校
小学校6年生の部(9人以下)
第3位 下郷町立江川小学校

施策5 人生100年時代を見通した多様な学びの場の確立

【なわとびコンテスト】

南会津地区には冬場の体育でなわとび運動を行い、校内なわとび記録会が設定されている小学校がたくさんあります。

福島県教育委員会が主催する「なわとびコンテスト」は、例年9月1日から始まり、翌年の1月までの期間で行われており、南会津のなわとび運動がピークとなる時期と少しずれがあります。県内全域の児童生徒と競い合うチャンスですので、早めになわとび運動を始めてみませんか。

個人の記録に挑戦したり、ペアで協力したり、学年や部活動の結束を強めたりなど、目指す姿にあわせて種目選択を行うとともに、実施時期、実施時間を決め、計画的に実施することで、自校の児童生徒の体力向上と肥満解消につながります。

施策6 安心して学べる環境整備

【校種を超えて合同避難訓練】

5月1日(金)、南会津高等学校と今年度開校したみなみあいづ支援学校との合同避難訓練が行われました。

敷地が広く建物の数も多いので、経路上の混乱がないよう事前の話合いをもとに、様々な面を配慮しながらの実施でした。訓練では全員が整然と避難し、真剣に取り組むことができました。連絡体制をどのようにしていくか等の課題も見出され、今後も児童・生徒の安全について両校で共有していくことを確認しました。

また、避難訓練終了後には対面式も実施され、高等学校と支援学校がお互いに代表生徒挨拶と校歌披露を行い、交流を深めることができました。



避難訓練終了後の対面式の様子

「広報 南会」の
バックナンバーは
こちらから⇒



「南会津教育事務所
事業推進の重点」は
こちらから⇒





「ただいま、南会津」
只見町立明和小学校
校長 荒川 真彦

引継で訪れた明和小学校の校長室で、壁に掛かった歴代校長の写真に祖父の顔を見つけ、「初めまして、じいちゃん」と呟いたのが今年3月末です。町関係機関やPTAの方々にも家族と縁がある方が多く、久方ぶりに帰る地元・南会津の人の温かさを身に沁みて感じています。

私は校長として、どの子も仲間と学ぶことが楽しみで、確かな学力が身に付いたと実感して家に帰る、そんな学校を目指します。そのために、「分かる・できる」授業と、どの子も安心できる学級や居場所をデザインし、信頼される学校をつくります。また、県総合教育計画「学びの変革推進プラン」と、南会津が目指す「自立と共生～南会津ならではの学校教育」を土台として、本校の教育目標「自律・尊重・責任」を身に付けた児童を育成していきます。さらに、只見町が推進するESDと、導入3年目となるJRCの活動を本校教育の独自性にとらえ、明和小にしかない魅力的な学校経営にあたっていきます。

今、自分のキャリアを振り返ると、多くの先輩や同僚に支えていただいたと実感します。今後、培った力の全てを発揮し、南会津の子供の育成に努めていきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



「挑 戦」
下郷町立檜原小学校
教頭 菊地 由起子

4月より、新任教頭として母校に勤めることになりました。毎日、とても貴重な経験をさせていただいております。

本校では、「当たり前のことを当たり前でできる子どもの育成」を目指し、その柱として「挑戦」を掲げています。私自身、当たり前のことを当たり前でできているだろうかと、日々、自分に問いかけていかなければならないと思っています。子供たちは、礼儀を大切に、様々なことに挑戦を続けています。私も最近、「本を1冊読む。」という挑戦を始めました。これは、短期挑戦。子供たちに負けないように、まずは一歩踏み出そうと思っています。

辞令交付式の時の「これからは、名前で呼ばれません。教頭先生と呼ばれます。」というお言葉が印象に残っています。新任披露式で、しっかり名前を言ったのですが、1・2年生の図画工作科の授業の際、「先生の名前は？」と聞くと、一斉に「教頭先生！」と返ってきました。教頭先生と呼ばれる意味を考えながら仕事をしていかなければならないのかなと思いました。私は、教頭職という挑戦を始めたばかりです。これが、私の長期挑戦でしょうか。みんなの笑顔のために、頑張りたいと思います。



「新採用教職員として」
檜枝岐村立檜枝岐中学校
教諭 齋藤 啓佑

2年間の講師経験が実を結び、晴れて新採用教職員として、檜枝岐村立檜枝岐中学校に着任いたしました。以前私が勤めていたのは郡山市にある生徒数700名を超える大規模な学校だったため、奥会津にある少人数の学校へ赴任すると知ったときは、環境の大きな変化に不安もありました。しかし、中学校の子供たちをはじめ、先生方や地域の皆様が温かく迎え入れてくださったおかげで、今は安心して日々の仕事に向き合うことができています。

私は数学科の担当として、「どうすれば子供たちに分かりやすく伝えられるか」と日々知恵を絞っています。数学は苦手意識をもつ人が多い教科だからこそ、どのような教材を使い、どんな声を掛け、どんな活動を取り入れれば少しでも好きになってもらえるか、悩みが尽きません。そのため、初任者研修での授業参観をはじめ、多くの先生方の授業を拝見しては、自分の授業に取り入れられる工夫を探し、すぐに実践に移しています。子供たちとともに、私自身も一歩ずつ成長していけるよう、全力で励んでまいります。

教科指導はもちろん、生徒指導や部活動の担当など、これまで以上に大きな責任感をもち、常に子供たちを第一に考えながら、新採用教職員として精進してまいります。



「南会津の子供たちとともに」
南会津町立伊南小学校
栄養技師 水野谷 桃香

毎日多くの方々に支えていただきながら業務に取り組んでおります。現在は少しずつ慣れてきましたが、まだ学ぶべきことも多く、勉強の日々を過ごしています。給食の時間など、実際に南会津の子供たちと関わる中で、苦手なものも頑張って食べようとする姿や、お互いに協力し合って準備や後片付けに取り組む様子に心を動かされています。そのような姿は、これまで地域や学校で積み重ねられてきた教育の成果であることを実感するとともに、私自身もその大切なバトンを受け継ぎ、次の世代へつないでいかなければならないと、改めて責任と役割の重さを感じています。

私は、地元福島県の子供たちの健康を食の面から支えたいという思いから、学校栄養職員を志しました。日々の給食管理や食に関する指導を通して、子供たちの食への関心を高め、望ましい食習慣の形成と生涯にわたる健康づくりに貢献したいと考えています。今後も、地域の子供たちの実態に応じた食育の推進と、南会津ならではの特色を生かした安心・安全でおいしい給食の提供に努めるとともに、子供一人一人に寄り添いながら、信頼される学校栄養職員を目指してまいります。